

臨時休校延長になりました。…6月1日(月)再開予定

4月21日・22日・23日の家庭訪問とポストインでは大変お世話になりました。学校再開に向けた準備段階の手立てでしたが、新型コロナウイルス感染は終息に至っておりません。4月27日には、新型コロナウイルス感染防止対策として甘楽町も公立小中学校の休校延長を決定しました。延長期間は5月末までです。全県下ではほぼ同様な対策がとられます。

これに伴い、生徒・保護者の皆様には不安や心配をおかけしております。甘楽中学校としても、休校中の生徒の心身の健康と学習支援について、以下のような手立てをとり、学校再開に向けて準備を進めてまいります。

○健康状態の把握について

- ・生徒が記入する「健康観察の記録」の継続
- ・保護者に回答していただく「甘楽中学校健康観察サイト（Googleフォーム）」の開設

○学習支援について（「課題配付日」（登校日）の設定、ホームページでの情報発信）

- ・各教科等の学習プリント等の課題の配布
- ・学習計画表の配布

今後のスケジュール等については、5月1日（金）に再度各学年職員がポストインに伺います。そこでの配布物等をご確認ください。

本当に不自由とご心配をおかけします。ご理解とご協力をお願いします。

校長のひとり言

例年“かんらの翼（学校通信）”は、月に1回程度を発行します。式辞や学校朝礼の講話を載せさせていただいております。今回は、儀式や全校集会等ありませんが、少しスペースをいただきます。

出会いと学びについて（出会いの原理…本物に出逢う）

ある詩人は“人は本物に出逢わなければ、本物にならない”と言っています。人は大きな魂の人に出逢わなければ、大きな魂の人になれないということでしょうか。また、道元（どうげん：曹洞宗の開祖）の言葉に“霧の中を歩めば覚えざるに衣しめるよき人に交われば覚えざるによき人になるなり”というのがあります。「霧の中を歩いていくと知らず知らずのうちに着ている服が湿っている。これと同じように、よき人に近づきその人の考えや行動を身近に感じていると自ずとよき人になる」ということです。子供たちの周りの大人が、よき人であること又はよき人になるために努めることは大事なことでと痛感します。このような時期です。私たち大人（学校の職員も含めて）が「本物」や「よき人」の何たるかを考える機会としたいものです。子供にとって学びとはよき人のもとで成り立つのですから。子供たちのみならず私たちも学ぶ側になります。その学びを私たちの縁ある人たちに及ぼしていく、それこそが学びの連続性だと私は考えています。

玄関を掃除しよう
夕飯を作ろう、手伝おう
肩たたきしよう

甘楽中生徒の君たちへ

学校休校延長だからこそ、“家族に善かれかし”を実践する絶好のチャンスだと思いませんか？チャンスだと思きましょう！いや、この機会を逃したら後悔します！！ これまでの経験をフル活用し、「家族のために善なることをするのだ」を実践してみてください。

1年生は、“他に善かれかし”はなじみがないですね。昨年一年間、甘楽中の生徒全員で「他に善かれかし：他の人に善（ぜん）なることをするのだ」について意識して生活してもらいました。他の人に善かれと思って行ったことは、そのときの自分をよい状態（善い気持ち）にし、結局は自分にとっても善かれになるのです。例えば、ボランティア活動は、他の人のための活動ですが、「ありがとう」「おつかれさま」と逆に声をかけてもらえたりすると「はい」「ありがとうございます」とすごく自然で素直に返事ができたりします。ご飯を作ったときにも、相手のためのご飯作りなのに、「おいしい」、「上手にできたね」、「また作って」などと声をかけられるととても気分がよくなります。他の人のために行ったことですが、結局自分も善い気持ちになります。人のために行くこと、人に喜んでもらうために行くこと、人の幸福を願って行くことが、結局は自分の幸せへとつながるといふことなのでしょう。（人を幸せにする人が幸せになるのだ）

不要不急の外出自粛が求められていますから、ご近所や町民のために何かともいえないでしょうが…。まず、身近で一番お世話になっている家族のために行動をおこしましょう。どんなことでも善いのです。できれば定期的で継続的になるといふことなしです。これが毎日になれば、まさに「一日一善」に他なりません。

学校再開後、君たちの声を楽しみに待っています。

（校長室入り口の「ボランティア」「弁当の日」報告書に書いて出してください。）



チャレンジ弁当の日（昨年の生徒の作品）